

2023 Annual Report

一般社団法人 Colabo | 2023年 活動報告書

「すべての少女に
衣食住と関係性を。
困っている少女が
暴力や搾取に
行きつかなくてよい社会に」
を合言葉に、
10代女性を支える
活動を行っています。



Colabo

私たちの想い

高校時代、私は渋谷で月25日を過ごす“難民高校生”でした。家族との仲は悪く、学校でも理解しようとしてくれる大人と出会えず、街をさまよっていた私は当時、「自分にはどこにも居場所がない」と思っていました。街には同じような想いを抱えて集まっている人がたくさんいました。ファストフードや漫画喫茶、居酒屋、カラオケの他、ビルの屋上に段ボールを敷いて一夜を明かしたこともありました。当時の私や友人たちは、家庭にも学校にも居場所をなくした“難民”でした。

そうした少年少女が、見守る大人のいない状態で生活するようになると、危険に取り込まれやすくなります。心身ともにリスクの高いところで搾取される違法な仕事、性搾取への斡旋や、暴力、予期せぬ妊娠や中絶など、目をつぶりたくなるような現実を、私はたくさん目にしてきました。友達を助けられないこともありました。

高校を中退し、このままでは生活できない、どうすればよいのだろうと悩んでいましたが、頼ったり、相談したりできる大人はいませんでした。そんな私に声をかけてくるのは、買春者

か、危険な仕事か性搾取に斡旋しようとする人だけでした。それ以外に、自分に関心を寄せてくれる大人はいないと感じていました。

それから十数年が経ち、私も「大人」と言われるようになりました。今でも、そうした少年少女に路上やネット上で声をかけるのは、多くが手を差し伸べる大人ではないのが現状です。

「大人はわかってくれない」「大人は信用できない」という声には、「向き合ってくれる人がいない」「信じてくれる人がいない」という想いが込められているのではないのでしょうか。必要なのは、特別な支援ではなく、「当たり前の日常」です。

私たちは、出会う少女たちの伴走者となり、共に考え、泣き、笑い、怒り、歩む力になりたいと思っています。すべての少女が「衣食住」と「関係性」を持ち、困難を抱える少女が暴力を受けたり、搾取に行きつかなくてよい社会を目指して活動を続けます。

一般社団法人Colabo 代表 仁藤夢乃



2023年度 活動概要



相談事業

・相談者数	900名
・対応件数	14,427回
・面談	1,263回
・同行支援	18回
・他機関連携	401件

夜間巡回・アウトリーチ

・活動回数	39回(バスカフェ開催は24回)
・声掛け人数	3,766名
・バスカフェ利用者数	775名

食事・物品提供

・食事提供	1,083食
・物品提供	1,277回
・『難民高校生』	124冊

一時保護・宿泊支援(一時シェルター)

・日中利用	202件
・宿泊	15名215泊

生活支援

・中長期シェルター入居者	1名
・生活支援	138件
・居住支援 入居者	4名
・就労支援	15件

サポートグループTsubomi

・活動回数	231回
-------	------

啓発事業

・講演会	12回、2,661名参加
・支援者養成研修	2回、28名参加
・夜の街歩きスタディツアー	16回、131名参加



目次

■ 私たちの想い	1
■ 活動概要・目次	2
■ 相談事業	3
■ アウトリーチ事業「Tsubomi Cafe」	5
■ 食事・物品提供	6
■ 緊急時の保護・宿泊支援	7
■ 生活支援	8
■ 居住支援・就労支援	9
■ 医療機関・弁護士との連携	9
■ 能登半島地震被災地支援	10
■ 歌舞伎町拠点・脱性売買相談所「女性人権センターKEY」	10
■ サポートグループ「Tsubomi」	11
■ 企画展「私たちは『買われた』展」	12
■ 啓発事業・研修	13
■ 夜の街歩きスタディツアー	14
■ 若年女性支援者養成講座	15
■ メディア掲載	16
■ 2023年度を振り返って	17
■ 13年間の活動実績	20
■ みなさまからのご支援	21
■ 会計報告	22
■ 応援メッセージ	23
■ 関連書籍	25
■ ご支援のお願い	裏表紙

相談事業

夜の街を巡回し、声をかけて繋がった少女や、HPやSNSなどを通して全国から寄せられる相談にのっています。

相談者数
900
名

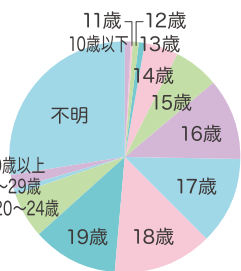
上記以外に
能登被災地での支援
1,082名

相談者の属性と現状

相談者数：900名(新規446名、継続454名)／本人からの相談864名(うち男子16名)
／本人以外からの相談36名(友人5件、教員3件、親9件、その他19件)

■相談者の年齢 (本人からの新規相談)

10歳以下— 4名
11歳 — 2名
12歳 — 3名
13歳 — 4名
14歳 — 21名
15歳 — 29名
16歳 — 50名
17歳 — 56名
18歳 — 61名
19歳 — 54名
20～24歳 28名
25～29歳 3名
30歳以上 — 9名
不明 — 122名

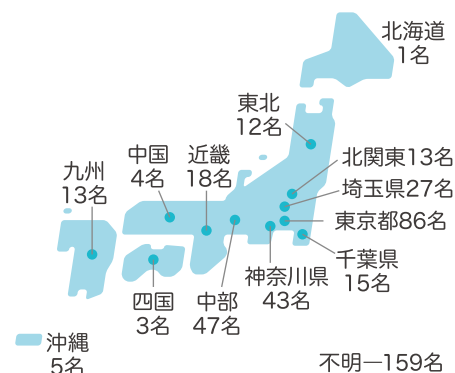


■出会ったきっかけ (新規相談)

街で声をかけられて — 105名
友人の紹介 — 53名
バスカフェ — 52名
SNSを通して — 42名
支援者・知人の紹介 — 38名
HPを見て — 10名
メディアを通して — 2名
代表の著書 — 2名
授業や講演 — 1名
私たちは『買われた』展 — 1名
その他 — 36名
不明 — 104名

■居住地 (新規相談)

相談は全国から寄せられます



■相談内容

家族のこと

- ・家族関係
- ・虐待(身体的/精神的/経済的/性虐待/ネグレクト等)
- ・家に帰りたくない
- ・家を出たい
- ・家出
- ・家を追い出された
- ・居所なし
- ・生活困窮
- ・子育て
- ・家族や友人の自死

学校のこと

- ・高校中退
- ・進路
- ・友人関係
- ・不登校
- ・いじめ
- ・教員からの性被害

性のこと

- ・性暴力被害
- ・性搾取被害
- ・恋人からのDV
- ・妊娠・中絶
- ・性感染症
- ・セクシャルティ

その他

- ・就労相談
- ・労働相談
- ・公的機関の対応について
- ・借金・金銭トラブル
- ・精神疾患
- ・自傷行為
- ・死にたい
- ・薬物等への依存
- ・発達障害
- ・知的障害

家が安心して過ごせる状況でないと、大人に助けを求めても適切に対応してもらえなかったことから、性売買の被害に遭っている少女たちと日々出会っています。過去に児童福祉や警察などの公的機関につながっても適切に対応されなかったことから、不信感を抱く少女たちとの出会いが多くあります。中学生に「児童相談所と関わったことはある？」と質問すると、「あんたもそっちの人間か」と厳しい目つきでバリアを張るような様子で言われたり、夜の街で声をかけたとき「保護じゃないよね？」と怯えた表情で言われたりしたこともあります。

生活が困窮し、生活保護などの福祉制度に繋がっていながらも虐待を

受けていたり、うわばきや文具、給食や修学旅行のお金が払えないなどの理由から性売買の被害に遭っていた中高生との出会いや、体調が悪くても「病院に行けない、行かせてもらえない」「親が家に帰ってこなくなった」「家に帰ったら自分の荷物が全部捨てられていて、家にも入れなくなっていた」などの相談も複数ありました。

安心して過ごせる場所を持たないまま、なんとか生き抜こうとする中で、少女は性的に商品化され消費され、性搾取の被害にあうことが多くありますが、男子は振り込め詐欺などの犯罪に使われたり、少女を性搾取する側として加害者になることが多くあります。ホストやメンズコンカフェなどで少女

たちに多額の借金を背負わせ、「払えないなら」と性売りに誘導したり、家出して一緒に過ごしている少年少女のグループでも男女間の関係性は対等ではなく、男子が女子に買春者を紹介し、少女に身体を売らせることによってお金や宿泊場所を確保することもあります。

虐待や性売買の被害にあった少女たちは、安全を手に入れてからもトラウマなどさまざまな影響と付き合いながら生きていかなければならないことが多く、長い目で暮らしを支える活動の必要性を感じています。しかし、深い傷を抱えた状態であればあるほど、利用できる支援の選択肢が少ない現実に直面しています。

少女たちと共に

少女たちはいくつかの問題を複合的に抱えています。

「あなたはどうしたい?」と問われても、それがわからない状態にあることも多くあります。暴力や支配の関係性の中にいたり、「今日をどう生きるか」に精一杯な状況では、これからのことを考える余裕もありません。

見返りを求められることなく安全に過ごせる場所で、落ち着いて考えられる時間や環境があることや、一緒に状況を整理する人との信頼関係があることで、考えることができます。

私たちは、共に食卓を囲み、何気ない日常を積み重ねることで互いを知り、困った時に思い浮かぶ顔になれる関係を築きたいと考えています。

ほとんどの場合、抱える問題はすぐに解決できるものではありません。

だからこそ、長い目で付き合い、ともに喜びや苦しみを分かち合い、泣き、笑い、怒り、共に歩める伴走者でありたいと活動しています。

相談を受けた少女への対応

14,427

回

■対応手段

LINE	10,630件
面談	1,263件
メール	385件
電話	54件
SNS	103件
その他	101件

■同行支援:18回

病院	7件
弁護士相談	3件
福祉事務所	2件
警察	2件
不動産	1件
その他	3件



■他機関連携:401件

■公的機関 学校 11件 児童相談所 7件 福祉事務所(女性相談、生活保護、子ども家庭等) 15件 警察 2件 保護観察所 1件 ■民間団体等 医療機関 130件 弁護士 82件 学習支援団体 7件 民間シェルター 4件	母子生活支援施設 1件 企業 1件 子ども支援団体 1件 児童養護施設 1件 性暴力被害者支援団体 1件 その他支援団体 113件 (外国人・若年女性・生活困窮者支援団体、福祉施設など) その他 24件 (職場、学校教員、議員、民間奨学金給付団体、地域支援者など)
--	--

同行支援から見えてきたこと

必要に応じて役所や児童相談所、病院、警察等への同行支援を行っています。特に、性搾取の被害にあったり、家出を繰り返していた少女たちが公的支援を利用するには高いハードルがあると感じています。彼女たちは、そうせざるを得ない状況を生き延びてきたと私たちは考えていますが、「非行少女」として取り締まりの対象となったり、「問題行動がある」と言われて支援機関に拒まれてしまうことがあります。

新宿でホテルに無理やり連れ込まれ性被害に遭った少女と警察に行ったら「どうせお金が欲しかったんでしょ」

と言われたり、性虐待から逃れて地方からやってきた少女が「事件が起きた地元は今すぐ自費で帰って、そちらで被害届を出すように」と言われたこともあります。ホームレス状態の少女が生活保護の申請をした際に役所から「現地保護はやっていない」と違法な説明を受けたり、虐待を理由に保護を求めた高校生が児童相談所の一時保護所で、「私語禁止のルールを破った」「生活態度が悪い」と罰として体育館を100周させられたこともあります。彼女たちに必要なのは、指導や管理ではなく、安心して過ごすことのできる場所や、信頼できる大人との関係性、

医療や教育、ケアなどです。教育や福祉に関わる人にも、まだ理解者は少なく、少女たちの背景に目を向けられる大人を増やしたいと考えています。

状況によって、一時的な対応でいったん困難が和らぐこともあれば、中長期的な関わりが必要な場合もあります。頼れる家族がいなかったり、親族から身を隠して生活しなければならない状況にあったりする場合では、シェルターを出た後も、家探しから、大家への挨拶、住所変更手続きの手伝い、トラブル対応、病気の時の看病、洗濯や掃除、食品の保存方法、服薬管理や貯金、進学や就労、恋愛、子育てに関してなど、日々の関わりを通して生活全般を見守っています。

アウトリーチ事業 TsubomiCafe

移動バスによる10代女性無料の夜カフェ。水曜日の20～24時まで新宿で開催。夜の街を巡回し、少女たちに声をかけ、繋がっています。

開催数

24
回

声掛けの活動

39
回

声掛け人数

3,766
名

利用者数

775
名



夜の繁華街で出会い、声をかけ、つながる



夜の新宿で無料のバスカフェを開催しています。ピンクのバスとテントが目印のこのカフェでは、食事や飲み物、

Wi-Fiや充電が無料。バスの中では、生活に必要な物品や衣類、コスメやコンドームなどを提供しています。

この活動は、韓国の民間団体の実践を参考にし、2018年10月～2024年3月までにバスカフェは140回、アウトリーチは156回開催し、19,273名に声掛け、4,199名が利用しています。



夜の街で少女たちを探し、声をかけるのは、性搾取を目的とした人ばかりです。新宿などの繁華街では、毎晩100人ほどのスカウトが街に立ち、少女たちに「どうしたの?」「仕事探してない?」と声をかけ、さらに買春者も毎晩100人以上いて、少女たちを性的なモノとして扱い「いくら?」と声をかけています。彼らは食事や宿泊場所を提供し、「衣食住と関係性」を与えるようにして近づきます。そ



それは決して「セーフティネット」ではなく、商品として扱い、性搾取するための手段です。困っている少女たちが支援につながる前に、危険に取り込まれています。

そこで、私たちは少女や女性たちに声をかけ、つながるアウトリーチ活動を行っています。Colaboのシェルターで暮らしたり、バスカフェを利用したりした経験のある20歳前後のメンバーが「声掛けチーム」としてアウトリーチを担い、「少し前の自分たちと同じような状況にいる子達に、Colaboに繋がってほしい」「変な男について行かなくても、力になってくれるところがあることを知ってほしい」と活動しています。



公的支援に繋がらない少女の中には、自分の困りごとに気づいていなかったり、あきらめ感が強かったり、自暴自棄になったりしている人が少なくありません。「大人に諦められた」と感じる経験をしていたり、自己責任論の中で「自分が悪い」と思い込み、声を上げられずにいる人もいます。「相談」や「支援」という言葉や行為に抵抗感を持つ人も少なくありません。



そのため、TsubomiCafeでは「相談」や「支援」を目的としない場づくりをしています。少女たちに利用してもらいやすいように、大人が「してあげる」場所ではなく、「少女たち自身の場所」として、気軽に

立ち寄り、セルフサービスで、自由に過ごせる雰囲気大切にしています。



食事・物品提供

食事提供

1,083

食

物品提供

1,277

回

応援者の方からいただいた食品、衣類、生活用品などを少女たちに贈っています。

「難民高校生」等の本

124

冊

出会った中高生や、学校や少年院で授業を聞いてくれた少女たちに仁藤の著書を贈っています。

一緒に料理したり、食卓を囲んだりする時間を大切にしています。お腹を満たすだけでなく、自分の状況を整理したり、出会いや関係性づくりの場にもなっています。

「一緒にご飯を食べよう」その一言から始まります



困っている人の一番の困りごとは「助けて」と言えないことです。困難を抱えたりしている少女たちの中に、「自分の問題

なんだから、自分でなんとかしなきゃ」「周りを巻き込みたくない」と思っている人は少なくありません。その結果、ひとりではどうにもならない事態に発展しているケースもあります。

私たちは、少女たちにまずは「一緒にご飯を食べよう」「今度ご飯食べにおいでよ」と声をかけています。



一緒にご飯を食べながら、お互いを知り、関係性をつくりたいと考えています。

「鍋など大勢で食べる料理を食べたことがない」「誰かが料理している所を見たことがない」という人もいます。ある時「調理されていない野菜や生肉を見たのは数年ぶり」と高校生が言いました。彼女は、妹たちと



子どもだけで生活していて、家には包丁や食器もないことがわかりました。

「家に食べ物が何もない」と連絡をもらうこともあります。生活が困窮していたり、家族が頼れない状況にある全国各地の少女たちへの食品や生活用品の郵送も行っています。



食事の場は「相談」のハードルを下げることにつながります。困ったときに「相談したいです」と申し出ることは、誰にとっても簡単ではないでしょう。そんなとき、少女たちは「そろそろご飯したいです」と連絡をくれたり、こちらから誘ったりしています。



「大人はわかってくれない」という言葉の裏には、「理解しようとしてくれる大人がいたら」という想いが込められています。

私たちは食卓を囲むことを通して、困ったときに、できれば事態が深刻になる前に相談してもらえる関係性をつくり、彼女たちがいつでも戻ってこられる「ホーム」の1つとなれればと考えています。



緊急時の保護・ 宿泊支援

安心して過ごせる場所がない少女が、一時的に過ごすことのできる場所として運営しています。

日中の休息等の利用

202
件

一時保護・宿泊

15名
215泊

宿泊支援の内訳

一時シェルター：14名134泊

中長期シェルター（一時保護利用）：1名81泊

一時シェルター

体を休め、落ち着いて考えられる場所を



安心して眠れる場所がないとき、困るのは、泊まれるところがないこと。「家にいられないとき、声をかけてく

るのは体目的の男の人だけだった。そういう人しか自分に関心を持たないと思っていたし、頼れるのはそういう人だけだった」とある中学生が言いました。2011年の団体設立時から、行き場を失った少女たちを代表に藤の自宅に泊めていましたが、もっと気軽に立ち寄れて、自分たちで自由に過ごせる場所を作ろうと寄付を募り、2015年夏にシェルターを開設することができました。

「今の状況を変えたい」と思っている人のほか、公的な保護につながることを嫌がりながらも「今日は安心して過ごせる場所がない」という人や、家出し見知らぬ



人の家を転々とする生活を続けながらも「ちょっと休みたい」という人も使える場所。

虐待や性暴力被害等からの緊急的な保護だけでなく、「今日は母親の彼氏が来るから家にいられない」「自宅の電気やガスが止められている間だけ泊めてほしい」「試験期間だけ泊まって朝起こしてほしい」「家ではゆっくり眠れないから仮眠したい」などの利用もOKとしています。宿泊以外にも、日中のんびりするのに使ったり、パソコンや宿題をしにきたり、キッチンやお風呂や洗濯機の利用も自由にできるようになっています。

必要に応じて、弁護士などと連携し、少女たちが安心・安全な場所で生活できるように一緒に考えます。これまで



利用した人の中には、里親のもとで生活をはじめたり、児童福祉施設に入所したり、一人暮らしを始めるなどしている人がいます。しかし、現状の公的制度の中では安定した生活を手に入れられずにいる人も多く、2016年度から、中長期シェルターとして、10代後半～20代前半の女性のためのシェアハウスを始めました。

生活支援

住まいの提供や、生活支援を行っています。虐待から逃れるために家を出て、ネットカフェやホテル、知らない人の家、性搾取業者の用意した寮などを転々としながら1年以上過ごしていたという少女もいます。

中長期シェルター（シェアハウス）

入居者

1
名



中長期シェルターを「10代後半～20代前半の女性を支えるためのシェアハウス」として2016年から運営しています。各家には、鍵付きの個室が3部屋とリビングやキッチン、風呂、トイレなどがあり、初期費用なしで入居でき、はじめの三か月は家賃無料（それ以降は月額利用料3万円～、状況に応じて相談）。家具家電、Wi-Fiあり、お米食べ放題。

入居者の主体性を尊重し、ルールは毎月のミーティングで一緒に決め、食事やゴミ出しなどは自分たちで行います。Colaboは彼女たちが主体的に生活を送れるようにサポートし、今後の生活に向けて一緒に考えます。

ネットカフェや誰かの家を転々とする生活では、持てない荷物や衣類は季節ごと、移動するごとに捨ててきたため、出会った頃は、カバンやぼろぼろのキャリー



ケース1つでやってくる少女たち。睡眠もほとんどとれず、緊張や不安の中に常にいる生活を送ってきたため、鍵付きの個室

に感動したり「本当にいいの?」と言ったりすることもあります。まずは自分の部屋で休んで、一つひとつ暮らしを作ってもらえたらと考えています。



それまでは「今日どう過ごすか」でいっぱいだったところから、生活が安定することで、過去の生活を振り返ったり、受けた被害や自分と向き合う時間、これからのことを考える時間ができて、辛い時期を過ごすこともよくあります。ここで暮らす間に、自身のケアをしたり、学校に通ったり、仕事をしてお金を貯めたりし、一人暮らしなど、それぞれの描く次の生活を目指します。私たちは、シェアハウスを出てからも、いつでも戻って来たり、顔を出したりできる関係でありたいと思っています。

大人が管理する「施設」に拒否感が強い少女たちに「自分の家」として過ごしてもらうため、少女たちだけで最大3人暮らしができる物件を5物件15部屋運営していましたが、2022年度から深刻な妨害の影響により、安全確保のために一部閉鎖や運用の変更をせざるを得なくなりました。

生活支援

生活支援

138
件

- 家庭訪問 ——— 78件
- 手続きサポート — 26件
- 生活環境整備 — 17件
- 緊急対応 ——— 10件
- 掃除サポート ——— 4件
- 金銭管理サポート 3件



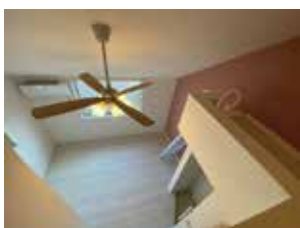
居住支援・就労支援

入居者

4
名

居住支援

2022年3月、大型の助成金をいただき、新たに8部屋の個室アパートを建設しました。入口はオートロックで宅配ボックスあり、各部屋には二口コンロ、ウォシュレット、浴室乾燥機、Wi-Fi、冷蔵庫、洗濯機、レンジ、ケトル、炊飯器、ローテーブル、タンス等、家具家電30万円分付き。保証人不要で入居できます。部屋のデザインや雰囲気にもこだわりました。こうした活動がモデルとなり、「施設」でなく「自分の家」として住める場所を増やしていけたらと考えています。



就労支援

15
件

就労を目指す少女たちに、資格取得や求人に関する情報提供や、履歴書の書き方や面接の練習などを行っています。Colaboと繋がりのある企業や商店等と連携し、アルバイトとして就労体験の機会をつくり、実際に就職に至ったケースもありました。今後も協力者や協力企業を増やしていきたいと考えています。

- | | | | |
|-----------|-------|--------|-------|
| ■ 手続きサポート | — 9件 | ■ 書類作成 | —— 1件 |
| ■ 情報提供 | —— 4件 | ■ 面接練習 | —— 1件 |



医療機関・弁護士との連携

医療支援 Colaboとつながる少女たちには、虐待や生活困窮を背景に体調が悪いときに医療にかかることが当たり前ではない生活をしている人が多くいます。避妊に失敗したり性暴力被害にあった後、アフターピルがほしくてもお金がなかったり、病院で医師から責められたり、「親の同意が必要」と言われることもあります。そこで、協力を申し出てくださったクリニックと連携し、少女たちに「避妊に失敗したり、生理痛が重かったりして悩んでいる人へ。ピルの服薬やアフターピルの処方について相談に乗ってくれる連携病院があります。お金の心配はいりません。必要な人は気軽に声をかけてね」と呼びかけています。

ピルや痛み止めの処方、妊娠検査や性感染症検査・治療、中絶手術等のご支援をいただきました。婦人科受診をきっかけに、生活状況やDVや性売買の被害に遭っていることがわかるなど、介入するきっかけにもなっています。

弁護士との連携 Colaboとつながる少女の多くは、児童相談所等で不適切な対応をされた経験を持っています。そのため、必要に応じて弁護士と連携し、子どもの権利保障の実現のために活動しています。具体的には児童相談所等への同行やケース会議への出席、親対応、学校、福祉事務所、警察や婦人保護施設、児童福祉施設、医療機関や民間団体との調整、連携などを共に行いました。弁護士には、「Colaboの弁護士」としてではなく「子どもの代理人」として活動してもらっています。

子どもが公費で弁護士による法的援助を受けられる国もありますが、日本はそうではないため、21年度から補助金を活用し、子どもの代理人弁護士報酬を国費で賄うことが日本で初めて実現しましたが、23年度からは東京都が対象となる団体を配偶者からの暴力被害者支援団体に限定し、若年女性支援を外したため費用が捻出できなくなっていました。

能登半島地震被災地支援

非常時には日常の差別が顕著になります。特に若い女性の困難やニーズはないものとされ、過去の災害でも、性被害を地元の関係では話せなかったり、困窮した状況に付け込み業者が女性を性売買に誘導したりすることも起きました。私たちは震災発生直後から準備し、2月から毎月一週間ずつほど能登で活動しています。

中高生や若い女性を探して輪島市、珠洲市、能登町、穴水町などの避難所を周り、一人ひとりと繋がり、必要な物を選んでもらい、教えてもらいながら活動してきました。少女や女性が着たいと思える衣類や靴が圧倒的に不足し、震災から半年経つ今でも水が出ず、調理できない生活を続けていたり、避難所が閉鎖され行政から「自立」を求められ、仮設にも入れないため、損壊して天井がなかったり隣の家の壁が突き刺さる自宅に戻って暮らしている人も多くいます。

学校でのカフェでは、避難所で繋がった少女たちとの再会も多く、地元の中高生が準備を手伝ってくれています。会場では生徒たちから歓声が上がり、教員の方々は「選べるのが嬉しいんだよね」「これまで学校に届いた物資は持ち帰らず、震災後のアンケートでも必要なものはないと回答していた生徒たちが、こんなに喜ぶなんて。Colaboは必要なものがわかっているからだ」とお話しされていました。2024年5月以降はアロマやお花、かわいい材料を使ったモール人形づくりなどのワークショップも行い、自分の欲しいものを選べる→作れる時間を一緒に持っています。



輪島朝市周辺



避難所で



学校で



新宿のバスカフェに来ている高校生たちと、能登に届ける物品を準備。能登での活動も一緒に行いました。

歌舞伎町拠点・脱性売買相談所「女性人権センターKEY」

歌舞伎町にくつろげるスペースを

2021年度、新宿歌舞伎町に新たな活動拠点をオープンしました。少女たちがくつろげるラウンジや、仮眠できるベッドルームも作り、子連れでゆっくりしにくる人もいます。

脱性売買相談所「女性人権センターKEY」

10代少女だけでなく性売買を辞めたいと考えている女性の力になりたいと脱性売買相談所として「女性人権センターKEY」を2022年度に立ち上げました。また関連組織として、当事者たちで「性売買経験当事者ネットワーク灯火（とうか）」を立ち上げました。灯火では、性売買が女性に対する暴力で性搾取であることを前提にし、性売買の実態を伝え、現状を変えるための当事者運動を行っています。



サポートグループ「Tsubomi」

Tsubomiは、Colaboとつながった少女たちによるグループです。それぞれが自分の状況に向き合いながら、ともに活動し、支え合いの関係も生まれています。

活動回数

231

回



能登被災地支援

Colaboとつながる少女たちがつながり、共に過ごし、活動する場。同じような経験をしてきた人たちと出会うこと

で自分の状況に向き合い、整理するきっかけにもなっています。合宿などの体験活動を通して社会問題について学んだり、誕生日や成人、卒業や就職などのお祝いを一緒にしたり、クリスマスや年越しを一緒に過ごしたりしています。児童買春の実態を伝える「私たちは『買われた』展」や講演会でのスピーチなど、経験を伝える活動も行っています。

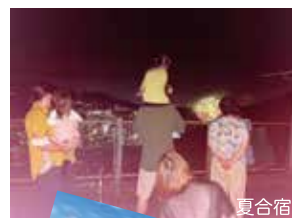


アウトリーチグッズづくり

- アウトリーチ活動：配布グッズ作成、バスカフェ運営準備、夜の街での声掛け
- 伝える活動：講演会での発言、企画展『私たちは買われた展』展示物作成、取材対応、Youtube番組『シリーズ キモいおじさん』撮影
- その他の活動：能登被災地支援、裁判傍聴、寄付物品仕分け・整理、事務作業
- 季節のイベント：誕生日会、成人祝い、クリスマス会、就職祝い
- 勉強会：性売買経験当事者との国際交流（韓国）、フィリピン研修、研修・講演会への参加、他団体視察
- 合宿：春合宿、夏合宿、年越し合宿



グッズ作り



夏合宿



夏合宿



成人祝い



夏合宿



Colaboとつながる10代のメンバーと共に、学校、職場、街中など、あらゆる場面で出会う<キモいおじさん>のキモさやモヤモヤを流さず、そのキモさはなんなのか、問題を言葉にする番組。性差別や性暴力、性搾取の実態を告発しています。ぜひご覧ください！



第1回『セクハラおじさん』(2020/03/18公開)
中高生から集まった「キモいおじさん」エピソードは2日で109枚。痴漢や性暴力被害を訴える。



第3回『風俗で出会ったキモいおじさん』(2021/11/15公開) 性売買の現場で買春者がどのような態度をとるのか、買春パパ活歴のある人が議員になることの問題も解説。

企画展「私たちは『買われた』展」

各地で企画展を開催したい団体を募集中！ パネル貸出しについてはお問合せください

中高生世代を中心とする当事者がつながり、声を上げることで、自分たちの権利を回復し、児童買春の現実を伝え、「売春」のイメージを変えたい。これまで表に出ることができなかった「買われた」私たちの声を伝え、今も苦しんでいる少女たちや、かつて似た苦しみを経験した女性たち、すべての女性に勇気を与えたいと、Colaboとつながる14～26歳まで39人のメンバーが立ち上がり、写真や体験談、手記、日記、「大人に伝えたいこと」をテーマにした作品を作成しました。



売春している中高生について、
どんなイメージを持っていますか？

2016年8月～

開催数

25

箇所

開催日数

91

日間

来場者数

12,752

名

- 快樂のため
- 愛情を求めて
- その場限りの考えで
- 遊ぶお金がほしいから
- 優越感に浸るため
- 自分も街で買春をもちかけられたことがあるけど、断った。だから、やる人はやりたくてやっているんだと思う
- 正直、そんな人と関わりたくないと思う
- どうしてそこまでやれるのか、理解できない

ある大学の授業で
学生たちに投げかけると、
こんな言葉が返ってきた。

当事者のAは言った。

「そんなもんだよ。世の中の理解なんて。
もう、そんなことでは傷つけなくなった。」

後日、このことをColaboにつながるメンバーで共有し
「イメージを変えたい!」と、この企画に至りました。

「行くところがないとき、声をかけてくるのは男の人だけだった。他にご飯を食べさせてくれる人も、泊めてくれる人もいなかった」(16歳・高校生)

「親も頼れる大人もいない、ひとりで生きていくしかないと思っていた。買った大人への怒りとかいうよりも、買われる前の背景があることを知ってほしい。家族や学校、施設で虐待されたり、ひどいことを言われたりしたことが繋がっている。そうでもないかと、生きられなかった。」(20歳・高校生)



企画展
参加メンバーと

日本では児童買春について「援助交際」などの言葉で、少女たちが気軽に足を踏み入れるものというイメージで語られてきましたが、そこにあるのは「援助」や「交際」と言えるようなものではなく、「支配」と「暴力」の関係性です。企画展を通して、金銭を介することで性暴力を正当化しようとしたり、買う側の気軽さには目を向けない大人がたくさんいることにも気づきました。

一方、企画展を通して、「私も同じ」と性搾取の被害に遭っていることを相談してくれる少女たちとの出会いが続いています。声を上げた少女たちの体験に共感し、「これまで、苦しんでいるのは自分だけだと思っていた。自分を責めていた。変わることも、抜け出すこともできないと思った」と、14歳の少女が言いました。来場者アンケートでも、「買われた」経験をもつ10～60代の女性たちからの感想を300通ほどいただきました。かき消されてきた声があることを改めて感じています。

「Colaboには、同じような経験をしたお姉さんがたくさんいて、昔同じような経験をした女の人から支援が届いているのを知って、自分だけじゃなかったって安心した。考えてもらうきっかけになったらいいし、何か感じてもらえるだけでいい。」
(15歳・中学生)

私たちが、いま、ここに生きていることを知ってほしい。

啓発事業

「少女たちの置かれた現状」「性搾取の実態、加害者の手口」「児童福祉の現状」「女性の人権」など、さまざまな問題、実態について講演やワークショップを行います。夜の街歩きツアーでは、少女たちを狙う加害者たちの実態や現状を伝え、大人の責任を共に考えます。

講演会

12
回

参加者

2,661
名

講演依頼を受け付けております。
HPからお問合せください。

中高生向け



家族や友人との関係、居場所や進路について、性のこと…色々なことに悩む中高生世代へ、「虐待や性暴力被害」「対等な関係

性について」「女性の人権や女性差別について」「貧困問題について」など、幅広くお話ししています。困ったときに自分を責めたり、あきらめたりしなくて良いように、また、困っている友達に気づいて、手を差し伸べたり、暴力や差別を目にしたときに声をあげられる人になるために、どうしたらいいのか？相手を尊重するとはどういうことか？一緒に考えます。

大人向け



今、日本で少女たちはどのような状況に置かれているのか、活動の中から見える実態をお話します。虐待や性暴力被害を生

み出す社会的な構造や加害者の存在に目を向け、大人たちの責任を問い、困っている子どもたちがどんな想いでいるのか、背景には何があるのか、私たちには何ができるのか、一緒に考えます。

2023年度講演実績

日本弁護士連合会、社会デザイン学会、全国フェミニスト議員連盟、立憲民主党、静岡県立大学、神奈川学園、大分県教職員組合、社会福祉法人長野いのちの電話、『無限発話』出版記念トークコンサート、中央社会保障推進協議会

性搾取社会を
見つめる

#37

今日のテーマ

買春男性の責任は問われず
女性が処罰される現実

YouTube
で放送中

「夜の街から」
「性搾取社会を見つめる」

活動現場からの報告やニュース解説、勉強会や記者会見動画などをUPしています。チャンネル登録をお願いします！



連載
更新中

『バカなふりして
生きるのやめた』
仁藤夢乃の
“ここがおかしい”



2023年
受賞

社会デザイン学会
「社会デザイン奨励賞」受賞

「度重なる中傷や妨害行為にもめげずに、困難の中にある若者たちへの支援を続ける活動は、二十一世紀の新しい生き方と社会の在り得べき形を探究する社会デザイン学会の理念に合致する」「人権意識に裏付けられた真に共生的な社会の実現に寄与する」と認めていただきました。



夜の街歩き スタディーツアー

開催数

16
回

参加者

131
名

教員、医療、福祉関係者、弁護士、議員など

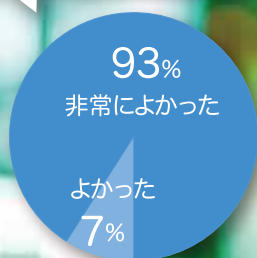
夜の繁華街を歩き、身近にありながら大人たちの目には見えにくい現状を解説します。目で見て肌で感じていただき、現状を知り、「気づける大人」を増やしていくための活動として位置づけています。普段の生活の中では気づきにくい、少女を取り巻く現状を知っていただく機会です。ぜひ、ご参加ください。個人での参加のほか、団体の研修としてもお受けしています。8名以上での申し込みで、好きな日程で調整可能です。



詳細・参加方法はこちら



ツアー参加者の満足度 (2023年度アンケート回答者55名)



参加者の声

**今まで、自分が見ようとしなかったことで、
現実を受け止めていなかったと痛感しました。**

意識して歩かないとわからない現状を知ることができました。関心を持たないことによって、近くにあるのに気づかずにいた現状に、おそろしい気持ちになりました。自分ができることを考え、行動しようと思いました。要所要所で説明をしてくれたので、より一層わかりやすくあっという間に時間が経ちました。現実として受け止めることができました。(40代女性 高校教員)

**若い女性たちを大人たちがいかに食べ物にしているか、
まざまざと感じました。**

この社会を作っている大人の責任について考えさせられました。また、支援するには女の子たちが何を求めているのか、どんなことを感じているのか知ることが大事であることがよくわかりました。私は行政の立場で仕事をしているので、弱い立場にある人たちを踏みつけるのではなく、尊重する社会を作っていけるよう、できることをしていきたい、私たちが変えていかなければと思いました。向き合う機会になりました。(40代女性 公務員)

- 少女を取り巻く危険や実態を知ることができた —100%
- これまで気づくことのなかった現状を知れた —100%
- 青少年を見る目や、若者に対する見方が変わった 71%

**私が普段仕事にしている福祉や教育は、届けたい人にこそ
届いていないという実態がよくわかりました。**

これまで頭で理解していたつもりでいましたが、実際に目の当たりにすることで、問題の重大さを実感しました。参加して本当によかったです。また、仕事のみでなく自分の日常の行動もこの問題と地続きであることがわかりました。これまで女の子たちが商品化されている様子を見て、違和感は何となく感じていましたが、それを言葉にすることや周りの人と話すことはありませんでした。ツアー以降、周りの人と話すようになりました。自分にできる支援を具体的に検討していきます。(30代女性 会社員)

若年女性支援者養成研修



詳細・申し込みは
こちら

2022年度、若年女性を支える活動をする上で必要な姿勢や知識について体系的に学べる講座をスタートしました。2023年3月までに5回開催し、111名が受講しています。

- ① 10代を中心とする若年女性の置かれている現状への理解を深め、
- ② 虐待や性暴力被害の影響や、性搾取を生み出す社会構造について学び、公的制度・法律などの知識を得て、
- ③ 当事者主体の支援のあり方について学び合い、若年女性支援に取り組む活動者を増やすことを目的とした全4日間、30時間のプログラム。
若年女性に関わる活動を続けてきた講師陣が、それぞれの専門性を活かしてお話します。



開催
2
回

受講者
28
名

1日目

性搾取の実態を知り、
構造的な暴力を理解する

2日目

自傷やトラウマ、
障害への理解を深める

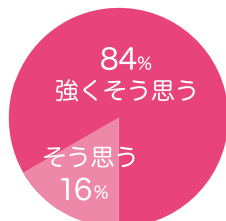
3日目

性と妊娠、性暴力被害への
対応を学ぶ

4日目

実際の活動の際の具体的な
注意点と選択肢

この講座を他の人にも
紹介したいと思いますか？



受講者の声

**色々な視点（医学、心理学、法律、行政など）から
知識をインプットすることができ、大変勉強になりました。**

当事者の声を聞く機会も用意していただき、若年女性がどれだけ過酷な状況に置かれているかにも衝撃を受けました。支援職ではない自分が何ができるかを知りたい、考えたいというのが参加動機でしたが、答えが見つかったように思います。やれることは山ほどあるなと感じました。今後も連帯していきたいです。(30代女性 製薬会社勤務)

**この社会で人権がいかにないがしろにされて
きているかを痛感しました。**

この講座で聞かなければ、現実や色々な権利を知らないままで、無知や無言という形で社会の構造を肯定してしまう側のまま若い人と関わっていくことに今後なっていた、そのことも「支援の暴力性」だなと思いました。(30代女性 NPO職員)

**日々の業務に取り入れる事が出来ると
思いました。**

社会での女性の立場はまだまだ低いし理解されてない。女性というだけで失う物があり過ぎます。社会を変えたい。その想いを強く感じた講座でした。受講できた事を感謝します。(50代女性 女性福祉相談員)

一人でも多くの人にこの講座を受けてもらいたいと思いました。

今まで同じ問題意識を持った方たちと話し合う機会がなかったので、自分の経験や感じたことをシェアしたり、皆さんの考えからたくさんの気づきを得られたことにも感謝しています。(30代女性 自営業)

メディア掲載

2023年度
一部

詳しくは右記サイトへ
ダウンロードや記事を
閲覧できるものあります



テレビ

2023年

- 6月 NHK・首都圏ニュース「都の女性支援事業行方団体 今年度は都の支援受けず活動へ」
- 12月 NHK・NHK NEWS「NHK インタビュー内容メモ ネットに流出 協力者におわび」

2024年

- 2月 石川テレビ・石川テレビニュース「これまでの震災をもとに 石川県の被災した女子高校生へ 心に寄り添った支援物資が届く」
- TBS・Nスタ「【独自】一般社団法人「Colabo」の名誉を毀損か 自称ユーチューバーの41歳男性を書類送検」
- NHK・おはよう日本「若い女性の支援団体に対する名誉毀損の疑い 40代男性書類送検」

新聞・雑誌

2023年

- 4月 東京新聞「バスカフェ妨害問題 出会い、つながる場守れ」
- 朝日新聞「少女支援バスカフェ、妨害で中止 夜の新宿、飛び交う暴言」
- 神奈川新聞「川崎市・浅野市議 コラボ問題便乗 筋違いの疑惑 追及 乏しい根拠 持論展開」
- 毎日新聞「Colaboが若年女性支援活動再開 妨害行為受け 1カ月休止」
- 朝日新聞デジタル「妨害で中止していたColaboの支援カフェ、東京・大久保で再出発」
- 朝日新聞「女性支援へ相次ぐ妨害 自治体に対応要請」
- 毎日新聞「Colabo、川崎市議を提訴「虚偽の動画で名誉を傷つけた」」
- 6月 朝日新聞デジタル「「支援、成り立たない」 Colaboが都の事業内容変更を批判」
- 毎日新聞「Colaboの支援活動、寄付金で継続 都への補助金申請を断念」
- 神奈川新聞「都に補助金申請せず コラボ個人情報提出を懸念」
- 9月 神奈川新聞「堂々と性売りに「驚き」 韓国の当事者団体「ムンチ」来日」
- 10月 週刊金曜日「「なぜ売なのか」ばかり取材し「なぜ買うのか」は問わないメディア 「路上売春」報道の視点に偏り」
- 共同通信「「日本人客は『ごめんね』と言いながら変態のような行動を要求する」 韓国の性売買当事者が明かした実体験
- 新宿・歌舞伎町では驚きも「痛み」を語り社会を変える」
- 神奈川新聞「女性支援団体「Colabo」 名誉毀損で「暇空茜」名乗る男性ら4人提訴」
- 神奈川新聞「「Colabo」たたき「娯楽」が生んだ被害深刻」
- 12月 共同通信「NHK、取材メモネットに流出か 事実関係を調査」
- 産経ニュース「NHKの取材メモ流出、派遣スタッフが「興味本位でやった」と認める」
- 東京新聞「NHKの取材メモがネットに流出 派遣スタッフ認める」
- 朝日新聞デジタル「NHK取材メモがネットに流出か 幹部ら「本物では」「重大事案だ」」
- 朝日新聞「NHKがColaboに謝罪 取材メモが批判する人物に流出していた」
- 共同通信「NHKがコラボに謝罪 メモ流出の取材に協力」

2024年

- 1月 朝日新聞「折々のことば：2960 鷲田清一」
- 朝日新聞デジタル「Colabo仁藤夢乃代表の名誉を毀損 ネット記事見出しで賠償命令」
- 2月 北國新聞「穴水中に女子生徒 必要な物資届ける 東京の団体」
- 北陸中日新聞「東京の団体 被災・穴水の中高校生へコスメ」
- 毎日新聞デジタル「「Colabo」への名誉毀損疑い「暇空茜」名乗る男性を書類送検」

WEBメディア

2023年

- 5月 のりこえねっとTube「【緊急配信】歴史的構造の中でコラボたたきを考える」 ▶▶▶
- 10月 Yahoo!ニュース「【暇アノン】懺悔録「暇アノンの姫」だった40代男性」

2024年

- 1月 弁護士ドットコム「仁藤夢乃さんの発言「まとめ記事」でデイリースポーツに賠償命令「安倍氏は「自業自得」の見出しは「名誉毀損」と認定」

海外メディア

2023年

- 5月 アメリカ・Unseen Japan「Colabo, Other Japan Women's Groups Enduring Targeted」
- 9月 韓国・Webzine KYEOL「Colabo's Fights against Sexual Exploitation and Misogyny in Japan Today」
- 12月 フランス・Le Monde「Au Japon, pauvret? et maltraitance poussent de plus en plus de jeunes femmes dans la spirale de la prostitution」

2024年

- 2月 ブラジル・ドキュメンタリー番組 The Future is Female「DOC_Ofuturoe Feminino#2」

その他

2023年

- 8月 東本願寺出版『同朋』2023年8月号「助けてあげるんじゃない。一緒に考えて行動したい。」
- 10月 一票で変える女たちの会「かわらばん」 ▶▶▶▶
- 「夜の街に彷徨う若い女性たちと繋がるColabo 代表 仁藤夢乃インタビュー 男たちの攻撃に毅然と立ち向かう」
- 11月 解放出版社『月刊部落解放』2023年12月号847号「Colabo攻撃は2020年代型バックラッシュ」
- 12月 『福祉のひろば』2023年12月号「【連載】婦人保護運動のこれまでとこれから～新法を生かすために～若年女性支援と新法①②」

2024年

- 3月 目黒区更生保護女性会「更生保護女性会60周年記念誌」
- 社会デザイン学会学会誌『Social Design Review』Vol.15 2023「性搾取社会と闘う私たちが対峙している現実」

書籍

2024年

- 3月 解放出版社『困難を抱える女性を支える Q&A—女性支援法をどう活かすか』『Q15アウトリーチとはどのような支援ですか？』



2023 年度を振り返って



今、Colaboが拠点を置く新宿歌舞伎町の少女を取り巻く状況は、私がこの街を見てきた20年間で最悪の状況となっています。虐待などを背景に「トー横」と言われる場所に全国から集まる

少女を狙う大人たちが溢れ、少女たちはあっという間に性売買の構造に取り込まれています。世界屈指の性売買スポットとして有名になった「大久保公園」には、円安の影響もあり数多くの外国人が少女を買いに来ています。もちろん、日本で暮らす男性はこれまでと変わらず、学生から社会人、高齢者まで買春のために集まり、公園を何周もして少女たちを物色しています。

性搾取の被害に遭う少女には小中学生も多く、性病にかかったり、妊娠したり、17、18歳で中年の買春者と結婚する少女も増え続けています。家族が頼れないなか出産する少女も多く、Colaboには子どもたちの声も溢れています。

買春者や性売買業者は野放し、行政による「まやかし」の対応

2023年3月に東京都が深刻な妨害に屈してColaboを歌舞伎町から追い出した後から、街の状況は凄まじい勢いで悪化し続けています。

少女たちを勧誘し、借金を背負わせて性売買に斡旋するスカウト、ホスト、メンズコンカフェ、整形業者なども取り締まられないまま、「悪質ホスト問題」などとして、あたかも一部の「悪質」なホストだけが悪いかのような印象操作が、メディアでも国会でも行われています。

新宿区長は、被害者ではなく「業界と対話します」と宣言し、区が連携をはじめた「若年女性支援団体」を名乗る団体と共に、ホストクラブに業界組合を作ること

を促して問題をすり替え、性搾取の構造を温存させることに加担しています。

東京都は、(公的機関や虐待親等への発覚を恐れる少女たちの匿名性を確保することの重要性を訴え続けたColaboには個人情報の提供を強制しようとしながら)「トー横」支援と称して匿名で利用できる居場所を開設しました。行ってみると、そこには男性しかおらず、成人男性も椅子の上で横になり寝ていました。とても少女たちが安心して利用できる場所ではありません。

強化される子ども・女性の取り締まり

一方で、家出した子どもたちの補導や、体を売らざるを得ない状況にある女性たちへの取り締まりは厳しくなり続けています。売春防止法の運用が女性に厳しいものに変えられ、女性の逮捕が相次いでいます。

北欧やフランス、韓国などでは、性売買のなかにいる女性たちの脱性売買を国が責任をもって支援し、買春者や業者を取り締まる買春者処罰法が(北欧モデル、性平等モデルとも呼ばれます。場所を提供したホテル等の取り締まりや、業者の利益や物件を回収して女性支援に活用している国も)あります。日本も買春者処罰と、性搾取の中にいる女性たちへの手厚い支援、生活・人権保障を行うべきではないでしょうか。

コロナ禍以降、少女や女性たちの経済状況は悪くなるばかりで、体を売めることは幅広い層の少女や女性たちにとって当たり前のことになっています。女性を性売買に追いやる社会構造を変え、その責任を国や政治、行政に問うていくべきです。

女性支援法の成立と、若年女性支援の形骸化

2015年ごろまでは、国や都に少女を取り巻く現状を伝えても「そんな子どこにいるの?」「若年女性向けの

支援の枠はない」と言われていましたが、2018年に厚労省がColaboの活動をモデルにし、アウトリーチやシェルターでの宿泊、自立支援などが盛り込まれた「東京都若年被害女性等支援モデル事業」（委託）が始まり、2021年度から本事業になりました。

2022年5月には、「女性支援法」が成立。66年間改正されなかった女性差別的な売春防止法が一部改正されて成立した、日本で初めて（遅すぎますね）の女性支援の根拠法です。新法制定に向けて、私は2019年から厚労省の検討会の構成員となり、新法に若年女性支援や「性搾取の構造から抜け出すための支援」が盛り込まれ、2024年春に施行されました。

それを恐れた性売買業者や、業者と繋がる議員、性搾取によってさまざまな形で利益を得てきた人たちが連帯し、Colaboへの攻撃を強めています。

その影響もあり、「若年女性支援事業」の意義は変えられ、形骸化しています。例えば東京都では、少女たちと路上で顔が見える関係性を作り、繋がるための「アウトリーチ」が「パトロール」（視点や関わり方が全く違います）や広報、図書館や高校でのチラシ配布、Twitterで絵文字を1つリプライすることなどで良いとされてしまいました。相談窓口があることを知って自分から相談できる人たちに広報や宣伝は有効ですが、アウトリーチは、自分から相談しようと思えない状況にある少女たちと信頼関係を築き、繋がるためのものです。

また、性売買業者とつながりのある者たちが「支援団体」を称して若年女性支援に入り込んで資金を得たり、行政と手を組むことも相次いでいて、性搾取を温存する構造が強化されています。形だけの「支援」に惑わされてはいけなく強く実感します。



バスカフェで
女の子たちと

意図的に生み出され、拡散され続ける デマの背景にあるもの

2022年5月には「AV新法」も成立。この法律はアダルトビデオ出演の被害者救済を謳いながら、「お金を介した性行為＝性売買」が契約の名の下に合法化される内容で、Colaboは「性売買の合法化の道を切り拓くことになる」と反対しました。真正面から性売買や性搾取に反対する声を上げたこともColaboが攻撃される理由です。

2022年度はじめに流されたデマは、「ColaboがAV新法に賛成し、被害者を増やして支援ビジネスで儲けている」というもので、参議院選に野党第一党から立候補した男性が、AV業界の人物と共に流しました。

それをきっかけに、SNS上で「Colaboによる公金不正」というデマが次々と生み出され、「Colabo攻撃のため」のカンパを募り、1億6千万円以上集めている加害者もいます。



弁護団と記者会見

性売買の実態を当事者と共に明らかに するたびに、流されてきたデマ

デマ拡散の影響は甚大で、注文していない物が届く「送り付け」は数百件、殺害予告やレイプ予告も続いています。これまでもこうした嫌がらせは受け続けてきましたが、被害が深刻になるのはいつも、当事者たちで性売買の現状について声を上げたときでした。

2014年のJKビジネスの実態告発、2016年の「私たちは『買われた』展」、2020年に番組「シリーズ キモいおじさん」を始めたとき、そして、今現在です。

22年度までの5年間は行政からの委託を受けて活動していたことから、情報開示請求や監査請求、住民訴訟等を用いた嫌がらせも続いています。

東京都に対する監査の結果、当然ですが不正はなかったこと、むしろColaboは都からの委託費では到底足りず、かなりの金額を持ち出して活動していたことが明らかになりました。それにも関わらず、デマは拡散され続け、バスカフェで使用しているバスの駐車場がSNSで晒され、バスが切りつけられる被害もありました。これはヘイトクライムであり、これ以上放置していたら被害は拡大し続けると考えて、弁護士を結成し、

加害者を提訴しました。今も10以上の裁判を闘っています。

時間や労力、資金等をこれらの対応に奪われることに憤りを感じますが、女性支援に対する攻撃が金儲けになる社会を変えるため、少女や女性の人権を守るために闘っています。裁判費用もみなさまからのカンパに支えていただいています。



裁判所の前で



女の子たちも裁判傍聴に

妨害に屈した東京都、「女の壁」誕生

私やスタッフの自宅を特定しようと訪問、活動拠点への付きまといや監視、バスカフェへの突撃等の被害もありました。私が街に出ると、性売買業者や業者に雇われた男たち30人ほどにあっという間に囲まれて、「歌舞伎町から出ていけ」「帰れ」「公金返せ」等と叫ばれることもありました。加害者には裁判所から接近禁止命令が出されましたが、東京都が「危ないから」とColaboの側に活動中止を要請し、歌舞伎町から追いついたことは、妨害者たちの成功体験になりました。

危ないところに少女たちがいるからこそ、私たちは命をかけて活動を続けてきました。性売買業者や闇金に囲われている少女たちを支える活動は、常に危険が伴います。東京都が妨害に屈してから、街では「お前らのことなんて誰も守ってくれねえよ」と業者の男に言われ、買春者はそれまでになく堂々と集まり、少女や女性たちに声をかけるようになりました。

都の対応に怒った市民の方々が、抗議や署名運動を行い、バスカフェを守ろうと全国の女性たちが立ち上がって「女の壁」となり、活動継続を支え続けてくれています。



政党を超えた複数議員がColabo攻撃に加担、パロディAVの販売

一連の攻撃には複数の議員や候補者が加担していることも深刻です。選挙ポスターや選挙カー等に「Colabo不正追及」と書いた議員（提訴しました）や、バスカフェへ直接妨害しに来る市議、デマを根拠に都議会や国会で質問する議員もいました。そうした議員とつながりのある性売買業者からの嫌がらせも様々あり、私やColaboをパロディにしたAVが「女性支援団体フェミニストの闇落ち」という内容で販売されました。こうした攻撃は、私たちが活動をやめない限り続くものだと考えています。

奪われたものの大きさと、奪えないもの

シェルターが特定される被害も深刻で、複数のシェルターや活動拠点を閉鎖・移転せざるを得なくなりました。かかった労力や費用も膨大でしたが、それ以上に、2015年に開設してから、少女たちとのたくさんの思い出が詰まった場所を閉めなければならなくなったことに胸が痛みます。Colaboとつながる少女や女性たちにとって、何かあったらいつでも気軽に帰って来れる場所でした。その地域での暮らしや関係性がありました。

「これまで積み重ねてきた時間や関係性は奪えない」「どこにいても私たちは繋がっている」「私たちがいるところがColaboだ」と話しながら、一緒に旧シェルターの片づけも行いました。置き場がなくなった家具や家電等はすべて、必要としている各地の少女に届けることができました。

13年間の実績

2011年5月～2023年3月

寄付のみで活動が続けた2023年

Colaboは少女たちの安心・安全を守るため、2023年度は5,000万円以上活用していた都の委託や補助（活動の実績を通して予算要求し、ようやく現実的な金額になってきたところでした）に申請せず、市民の方々からのご支援のみで活動することを決めました。

月に100万円、200万円と赤字が出ることもありましたが、なんとか活動が続けることができました。2024年度の寄付は減少傾向です。金額や口数を増やしてこれまで以上に支えていただきたく、お願い申し上げます。周りの方にもColaboのことを伝えて、支援の輪を広げてください。

これだけひどい妨害があるのは、Colaboの活動が効果的で、攻撃者にとって脅威になっているからだと理解しています。活動が続けることが最大の抵抗でもありと考え、これまで以上に少女たちと繋がっていき、夜の街でのアウトリーチも強化しています。



能登の避難所前で

1月1日に発生した能登半島地震の被災地にも2月から継続して入り、避難所や学校、仮設住宅などで少女や女性たちと繋がり、支える活動をしています。

私たちはあきらめず、前を向いています。どんな妨害があっても追い出されないよう、自分たちで土地や建物を持ち、夜の繁華街に少女たちが駆け込める場をつくりたいと今後の計画もしています。そのための資金も必要ですが、まずは活動が続けること、少女たちの逃げ場や暮らしの場を守り続けること、そのための土台をしっかりと築いていくことをしていきます。いつも一緒に怒り、声をあげてくれるみなさんに感謝しています。

2024年6月

代表 仁藤 夢乃



Colaboのスタッフと

相談事業

・相談者	6,869名
・面談	10,119回
・同行支援	902回
・他機関連携	4,167回

夜間巡回

・アウトリーチ回数	329回
・声を掛けた人数	19,318名
・バスカフェ開催数	168回
・バスカフェ利用者数	4,212名

食事・物品提供

・食事提供	9,281食
・物品提供	7,563回

一時保護・宿泊支援（一時シェルター）

・日中利用	312名、3,518件
・宿泊支援	381名、3,210泊

生活支援

・中長期シェルター入居者	69名
・生活支援	1,408件
・就労支援	529件

居住支援

入居者	7名
-----	----

サポートグループTsubomi

289名参加、1,090回活動

- ・「私たちは『買われた』展」
25会場、91日間、12,752名来場

啓発事業

- ・講演会 381回、50,991名参加
- ・夜の街歩きスタディーツアー
190回、1,543名参加
- ・若年女性支援者養成研修 5回、111名

受賞歴

2015年

- ・エイボンプロダクツ「エイボン女性年度賞」
- ・日経ビジネス「次代を創る100人」
- ・文藝春秋「日本を代表する女性120人」
- ・日経ウーマン・オブ・ザ・イヤー「若手リーダー部門」

2019年

- ・Forbes Under30 Asia 2019社会起業家部門

2021年

- ・国際女性デーHAPPY WOMAN AWARD
2021 for SDGs

2023年

- ・社会デザイン学会「社会デザイン奨励賞」

みなさまからのご支援

♥サポーター会員

2,534名(3,755口、2,253万円)

♥資金寄付

●個人の方から

2,048名(2,940件、5,713万1,453円)

●企業・団体から

44件 (236万2,409円)

●ソフトバンクつながる募金を通しての寄付

854件 (117万9,627円)

●講演会場での寄付

14会場(31万1,107円)

♥物品寄付

一般寄付 : 444回

Amazon : 3,319回

合 計 : 3,763回

●物品寄付 1,634万6,620円

(Amazon欲しいもののリストからの寄付等金額換算できるもの)

●金券 76万4,000円分

(切手、商品券、Amazonギフトカードなど)

♥企業からの物品寄付

9社、24件、608万9,816円

株式会社JKトレーディング



株式会社ピー・エス・
インターナショナル



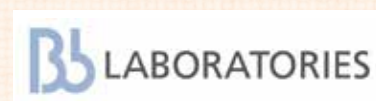
株式会社フラン



株式会社ナンバースリー



株式会社ビービーラボラトリーズ



American Eagle

株式会社TFC

♥助成金で支えていただきました！

一般財団法人上野千鶴子基金



公益財団法人日本財団
「令和6年能登半島地震
に関わる支援活動」



認定特定非営利活動法人
ウィメンズ アクション
ネットワーク(WAN)「WAN基金」



一回のバスカフェ開催で
使用する食品・物品

想いのつまった
ご支援、
ありがとう
ございました！



会計報告

活動計算書

自 令和5年 4月 1日 至 令和6年 3月31日 [税込] (単位:円)

【経常収益】			
【受取会費】			
サポーター会員受取会費	22,530,000		
【受取寄付金】			
受取寄付金	88,438,763		
【受取助成金等】			
受取助成金	4,739,242		
【事業収益】			
事業収益	4,711,321		
【その他収益】			
受取 利息	111		
雑 収 益	398,123	398,234	
経常収益 計			120,817,560
【経常費用】			
【事業費】			
事業費 計	74,932,716		
【管理費】			
管理費 計	28,123,697		
経常費用 計			103,056,413
当期経常増減額			17,761,147
【経常外収益】			
経常外収益 計			0
【経常外費用】			
経常外費用 計			0
税引前当期正味財産増減額			17,761,147
法人税、住民税及び事業税			70,000
当期正味財産増減額			17,691,147
前期繰越正味財産額			313,991,328
次期繰越正味財産額			331,682,475

指定正味財産増減の部

【受取助成金】	
【一般正味財産への振替額】	
当期指定正味財産増減額	△ 2,508,242
前期繰越指定正味財産額	99,635,505
次期繰越指定正味財産額	97,127,263

2021年度にアパート建設のための助成を受けました。用途が指定されており、全額資産となる助成であるため、「指定正味財産増減の部」として計上しています。

裁判関連費用カンパ(2023年1月～2024年3月)

カンパ合計額	32,772,541
裁判関連費用使用額	17,643,624
カンパ残額	15,128,917

活動への深刻な妨害やデマ拡散等に対する法的措置のため、裁判関連費用のカンパを募りました。通常の寄付口座とは分けて管理しています。

サポーター会員は2,534名となり、寄付と合わせて4,500名を超える方たちに支えていただきました。また、3つの団体より、シェルターやバスカフェの運営、能登での活動へ助成いただきました。妨害の影響などもあり企業などからの寄付は減少しましたが、活動を支えてくださる個人の方からの会費と寄付は昨年度より3千万円近くも増えました。多くの方たちの存在により、活動を続けることができています。

講演会や街歩きスタディツアー、若年女性支援者養成講座などの収益です。深刻な妨害を受け、東京都からの委託事業などを受けなかったことから、昨年度までと比べ大幅に減少しました(22年度事業収益約6千340万円)。

シェルターの場所を特定するなどの妨害により、複数の拠点を閉鎖しました。妨害が深刻だった際には活動を縮小せざるを得ず、家賃や人件費などの固定費が減少しました。一方で、食事や生活用品など女の子たちの暮らしに直結する費用は昨年度よりもさらに増えています。能登での活動では、すでに23年度だけでも提供する衣類や日用品、食料の購入費用などに1,300万円以上の費用がかかりました。緊急時でも多くの方たちからの支えがあることで、すぐに動き出すことができています。

この内、1億5千万円を「シェルター居場所増設職員雇用積立金」として積み立てています。将来、夜の繁華街に少女たちが駆け込めて、宿泊できる場をつくりたいと計画しています。多くの方からの支えにより、23年度も収支がマイナスになることなく、その中から新たに1千万円を積み立てることができました。

団体概要

【名称】 一般社団法人Colabo

【設立】 2011年5月 (2013年3月に法人格取得)

【役員】 代 表 理 事 仁藤 夢乃

副代表理事 稲葉 隆久

理 事 齋藤 百合子 (大学教授)

田中 優子
(法政大学名誉教授 前総長)

角田 由紀子 (弁護士)

細金 和子
(婦人保護施設慈愛寮 元施設長)

監 事 岸本 英嗣 (弁護士)

2024年6月現在



応援メッセージ

私たちも応援しています！



小島 慶子 エッセイスト

「外をふらついているのは素行の悪い子どもなのだから犯罪に巻き込まれても自業自得。性的搾取や性暴力の被害にあっても自己責任。そもそも本人が遊ぶお金欲しさに望んでやっていることなのでは？」こんな意見を、あなたはどのように思いますか？街にしか居場所のない子どもたちがいます。経済的な事情や、家庭でのネグレクトや暴力など、様々な理由で帰る場所のない子どもたちがいます。身を守るための知識がなく、頼れる人もいない子どもたちを利用したり、買ったりする大人たちが後を絶ちません。そんな子どもたちが頼れる場所を増やそうという仁藤さんの取り組みに賛同します。



稲葉 剛 立教大学大学院客員教授／一般社団法人つくろい東京ファンド代表理事

相談窓口を作って、待っていても、支援を必要としている人はなかなか来てくれない。これは経済的な貧困や社会的な孤立など、様々な困難を抱えた人たちを支える活動の中で、幾度となく言われてきたことです。なぜなら、「誰かに相談をして、助けてもらえた」という経験を持ったことのない人は、相談をすることによって自分の状況が良くなると思えず、窓口まで足が向かないからです。では、どうすればいいのか？待ちの姿勢をやめて、彼ら彼女らのもとに出かけていくこと。それがアウトリーチと呼ばれる活動です。居場所がなく、夜の街をさまよう子どもがいれば、自らそこに出かけていく。仁藤夢乃さんたちはこれまで地道なアウトリーチを続けてきました。2019年春、Colaboとも協働し「東京アンブレラ基金」を立ち上げました。都内のさまざまな団体が「今夜、行き場がない」人に「緊急宿泊支援」を実施した際、費用の一部を補助する仕組みです。Colaboの活動を応援し、さらに連携を進めていきたいと考えています。



麻木 久仁子 タレント・国際薬膳師

貧困、虐待、暴力、人間関係など様々な理由で安心安全な居場所を失い、社会からその存在を切り離され、街を彷徨うことを余儀なくされている少女たちは、心も体も傷ついています。自分が受けた傷や被害の責任が自分にあるかのように感じることも多いそうです。こうした少女たちの自尊心は、深く深く切り裂かれてしまうことでしょう。仁藤夢乃さん率いるColaboは少女たちの隣にいて、同じ時代に同じ街で生きる「仲間」として手を差し伸べています。かわいそうだから助けるというよりも、仲間だから支えるということ。現実的な自立の手立てを提案すると同時に、ゆえなく傷つけられた自尊心を回復するということ。仁藤さんの揺るぎない信念を感じます。そんなColaboに共感し、心から応援します。



©Keiichi SUTO

桐野 夏生 作家

仁藤夢乃さんとColaboの、街にバスを出すという素晴らしいアイデアに、心底感心しました。実際に街に出て行って、居場所のない、そして行き場のない少女たちに、手を差し伸べること。それも一時的な支援ではなく、彼女たちの心を引き受けること。言葉にするのは簡単でも、それがどんなに大変で、責任のある仕事であるかは、やってみないとわからないことです。私は、仁藤夢乃さんの信念と行動力に、心から尊敬の念を持っています。そして、でき得る限り、支援していきたいと思っています。



水原 希子 俳優

ふと目に留まった仁藤夢乃さんのツイートをキッカケに、Colaboの存在を知りました。家族から虐待など、様々な理由で身に危険を感じ、家に帰る事ができずに居場所を失った女の子達は、性被害の恐怖にさらされる。そんな女の子達に夜の街にバスとテントを張り、自ら声をかけてサポートをしているColaboの活動に感銘を受けています。そして今、コロナの影響で虐待の増加、そして性被害に巻き込まれてしまっている女の子達が増えている現状があります。こんな辛い事に巻き込まれてしまう女の子達を1人でも無くしたい。私も自分の活動を通して、1人でも多くの女の子達が安心して過ごせる様に、彼女達の未来のために一緒に立ち上がります。引き続き、Colaboの活動を応援しています。



安藤 優子 ジャーナリスト

仁藤さんの少女たちを助けるための活動のすごいことは、常に発想が徹底して少女たちの目線、立場にあることです。そしてきわめて現実的です。少女たちがなぜ自らを危険な目にさらさなくては生きていけないのか、どうしてそうってしまったか、そんな少女たちがほんとうに必要としているものはなにか、彼女は過去の体験から同じ目線で寄り添いながらその答えを見つけようと頑張っています。私は仁藤さんたちのチャレンジ、活動を応援いたします！



松本 俊彦 国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 薬物依存研究部 部長

私はこれまで精神科医として、たくさんの「自分を傷つけずにはいられない」少女たちと出会ってきました。彼女たちは夜の街をあてどなく漂流し、様々な危険な目に遭いながら、いつ死んでもおかしくない生き方をしていました。そして、みんなきまって助けを求めるのがとても下手くそでした——一番しんどい状況のときには病院に姿を見せず、嵐が過ぎ去って少しだけ楽になった頃に、「すごく大変だった」と報告しにやってくる——そんな感じです。それでも、来てくれるのはよいのです。気になるのは、途中からずっと姿を見せないままにいる子たちです。あの子たちは今どこで何をしているのか——。こうした少女たちを救うには、病院や行政だけでは不可能です。夜の街に直接出向き、彼女たちと同じ目線、同じ言葉で語りかけ、手を差し出してくれる人が必要です。私は、そのようなColaboの活動を応援しています。



© Maki Ishii

石内 都 写真家

少女という一瞬をどうやっていきるのか、すべての女にとって大きな通過点だ。少女は常に分断され孤立し、いたぶられる。それをはねのける力は一人の少女の中には無い。家族も社会も国家も少女を一人の人間としてみていない。その少女を理解出来るのはかつて少女だった私達だ。少女が少女であるがまま自然でいられるように。



横田 千代子 婦人保護施設いずみ寮寮長／全国婦人保護施設等連絡協議会会長

Colaboの存在・働きは、居場所を失った女性たちにとっては心強い味方です。私たちも女性支援をしています。行政機関（女性相談センター）で措置された女性たちのみの支援です。根拠法を売春防止法として設置されている「婦人保護施設」です。私たちは居場所のない女性たちを直接支援することが出来ません。いつも歯がゆく思っています。Colaboの活動も、本来、私たちが踏み出さねばならない事業だと思います。行政の後ろ盾もなく今にある活動まで積みかさねられた働きに心から敬意を表します。「受け止めてくれる場所がある」「今晚一晩泊まれるところがある」大事な支援です。被害から身を守ります。Colaboの働きと連携できるシステムが欲しいです。小さな灯が大きな社会の動きにつながる日を待ち望み、祈ります。

関連書籍



難民高校生 — 絶望社会を生き抜く「私たち」のリアル

(英治出版 2013/3/25、ちくま文庫 2016/12/7 文庫化、台湾でも翻訳)

「私は渋谷で月25日を過ごす」難民高校生”だった。仁藤が自身の経験を綴った単著。ちくま文庫での文庫化時には、出版時には書けなかったことも含め、あとがきを20ページ追加。「大人になったら、本書こう！それで、うちみたいに悩んだり、こんな必死に生きてる高校生がいるってことをみんなに伝えて、わかってくれる大人を増やそう！それで、今のうちみたいに悩んでいる子をどうにかできるようになろう！」かき消されてきた、それぞれの声。

女子高生の裏社会

(光文社新書 2014/8/7)

「関係性の貧困」に生きる少女たち



「未成年が容易に騙され売春へ取り込まれている」「女子高生を使った人身取引が横行している」と世界から指摘される日本社会。Colaboの活動を通して、出会う少女たちと共に「JKビジネス」の実態をはじめて世に告発した一冊。

性暴力被害を聴く

(岩波書店 2020/9/26)

「慰安婦」から現代の性搾取へ



性暴力を語ることは、被害者の心身に大きな苦痛を与え、困難を極める。韓国や日本で、その被害をどう聴いてきたのか。仁藤は10章を担当し、「慰安婦」問題と現代の性搾取のつながり、「慰安婦」にさせられた女性たちとの出会いについて書いています。

性売買のブラックホール

(ころから株式会社 2022/5/27)

韓国の現場から当事者女性とともに打ち破る



日本の植民地支配に起源をもつ韓国の性売買。その実態を伝え、「性売買防止法」制定運動に携わり、「性売買問題解決のための全国連帯」で女性たちの脱性売買を支援する活動に携わってきたシンパク・ジニョン氏の単著。仁藤が「日本の性売買の現場から」とし解説を担当。性売買が女性に対する暴力であることをわかりやすく伝える一冊。

「日本の性売買の現場から」とし解説を担当。性売買が女性に対する暴力であることをわかりやすく伝える一冊。

路上のX

(朝日新聞出版 2021/2/5)

これは現代の人身売買だ



桐野夏生さんがColaboのことを取材して描いた小説。文庫版の解説を仁藤が担当。Colaboとつながる少女たちの日常がリアルに描かれています。



当たり前前の日常を手に入れるために —性搾取社会を生きる私たちの闘い—

(影書房 2022/9/2)

Colaboとつながる少女たちや共に活動してきた専門家らとの対談等を通して、Colaboが少女たちとどのように活動をつくってきたのか振り返り、社会を見つめます。性搾取を容認してきた大人の責任を追及し、アウトリーチやシェルター運営、当事者運動や当事者主体の支援のあり方について考える一冊！

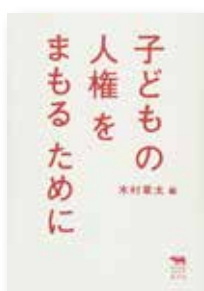
以下の本にも仁藤が寄稿しています。

日本のフェミニズム (河出書房新社 2017/12/20)

子どもの人権をまもるために (晶文社 2018/2/8)

私にとっての憲法 (岩波書店 2017/4/22) (解放出版社2024/3/22)

困難を抱える女性を支えるQ&A:女性支援法をどう活かすか



2024年
出版



10周年記念誌 活動する人・

支える人特集2021

2021年5月に活動10周年を迎え、記念誌を作成しました。これまで活動を共にしてきた方々と10年間のあゆみを振り返り、スタッフの想い、Colaboの社会的意義とこれからをまとめました。



▲こちらからダウンロードできます

Colabo

Colaboスタッフ活動スローガン 「一人ひとりが、活動家」



2023年11月、活動報告会にて支援者のみなさまと

私たちColaboは「支援団体」ではなく、虐待や性搾取被害の経験当事者の少女・女性たちを中心とした「当事者運動」です。そのため、創設時から、少女たちを「支援対象」としてではなく、共に声を上げ、社会をつくる主体であり、仲間と考えてきました。Colaboのスタッフは、出会う少女・女性たちと、支援する/される関係ではなく、「共に考え、行動する」ことを大切にしています。

Colaboとつながる少女たちや、すべてのスタッフ、ボランティア、寄付者の方々が、社会を変える当事者だと考えています。私たちは出会う少女・女性たちの状況に応じて、その方の生活や人権が保障されるよう共に考え、行動したり、当事者意識をもって性搾取・性売買の問題に取り組めます。

ご支援のお願い

私たちの活動は、市民の方のご寄付に支えられています。サポーター会員になって活動を支えてください。

2022年度に発生した深刻な妨害に対する行政の対応から、少女たちの安心・安全を守れないと判断し、2023年度から私たちはそれまで5,000万円ほど活用していた公的な資金を受け取らず、自主事業として活動を続ける選択をしました。経済的には大変厳しい状況です。

自主性を保ち、路上をさまよ性搾取のなかにいる少女たちに必要とされることを行い続けるため、金額や口数を増やしてこれまで以上に支えていただきたく、お願い申し上げます。みなさんの周りの方にもColaboのことを伝えて、支援の輪を広げてください。

サポーター会員になる

年会費／1口：6,000円 ～ 何口でも ▶▶▶ ▶▶▶ ▶▶▶

私たちの理念・活動に共感いただいた方に、会員として活動を支えていただいています。HPよりお申し込みください。

会員特典：会員向け通信でのご連絡、活動報告会へのご招待、研修割引

応援の方法



お手続き・カード決済は
こちら

活動資金の寄付をする

●クレジットカードによる寄付 HPよりお願いいたします。▶▶▶

●口座振込による寄付

■ゆうちょ銀行

(ゆうちょ銀行〈振替先選択で「記号番号」から振込の場合〉)

記号) 10150

番号) 91829801

名義) イッパンシャダンハウジンコラボ

■ゆうちょ銀行

(他金融機関・ゆうちょ銀行〈振替先選択で「店名」から振込の場合〉)

店名) 〇一八 (ゼロイチハチ)

店番) 018

口座) 普通 9182980

名義) イッパンシャダンハウジンコラボ

■三菱UFJ銀行

渋谷中央支店

口座) 普通 0363448

名義) イッパンシャダンハウジンコラボ

食品・物品の寄付



随時必要な物をHPに掲載しています。

送付先はお問い合わせください。

以下の物品を募っています。

- ・商品券、カタログギフト・衣類(新品のみ)
- ・日用品(生理用品、コスメ等)
- ・食品：果物、野菜等の定期的なご支援
歓迎です！

ほしいもののリストからの寄付



サイトに必要としている物品を掲載しています。Amazonからの購入でColaboに届く仕組みです。

講演のご依頼・お問い合わせ

Colabo 一般社団法人 **Colabo**

URL: <https://colabo-official.net/> Mail: info@colabo-official.net



HP



X



Instagram



facebook



YouTube